

4.16 マイワシ大漁!!!

境漁港の水揚げがこの日1千トンを超え、市役所に大漁旗が掲げられました。今年に入り、8回目の1千トン超えです。

中でもマイワシは、4月に1千トン超えが4回目となり非常に好調です（4月18日現在）。

昨年は約3万トンの水揚げがあったマイワシ。昨年以上のペースで水揚げが続いており、今年も豊漁が期待されます。



4.16 国際交流員の金海蓮です

市の友好都市である中国吉林省琿春市から国際交流員として、金海蓮さんが着任しました。

琿春市からの国際交流員の受入れは1995年から始まり、15人目になります。

金さんは、朝鮮族のため、ハングルにも対応でき、中国や韓国からの訪問客の通訳や翻訳、中国語講座の講師（14ページに関連記事）など幅広い活躍が期待されます。

さがいみなとの



市の文化財⑦

昨年度新たに指定された文化財を紹介します。

皇の松伝承地

1221年、「承久の乱」の結果、隠岐への配流が決まった後鳥羽上皇は、安来から船で隠岐へ向かう途中、昼食を取るため、浜辺の大松の下に船を寄せられました。

その松の傍らに住んでいた老人が上皇に「そばもち」を焼いて献じ、「弓ヶ浜は国引きの妙なる小綱です」と申し上げたところ、上皇は「天が下おほふ袖だになきものを、しばしはゆるせ浜松のかげ」と詠まれたと伝えられています。老人の家には、その時賜った小刀と、御湯を捧げた茶托が伝わっていたといわれています。

この故事にちなみ、昭和5年、伝承ゆかりの地に上皇の御製（和歌）を記した歌碑が建てられました。上皇ゆかりの松は弓ヶ浜一の大木といわれ、「皇の松」と呼ばれて親しまれてい

ましたが、明治30年に枯れてしまいました。現在は4代目の松が植えられており、毎年8月、地元住民による「皇の松まつり」が松の下で行われています。地元住民による「皇の松保存会」は、祭のほか、「皇の松踊り」を考案し小学生に指導するなど、伝承を後世に伝えていくための活動に取り組んでいます。

松の周囲には、歌碑、小祠、皇の松会館（旧上道村役場）が建っていますが、碑や小祠は伝承を伝える場所として、会館は児童クラブや伝承保存活動の拠点として地元住民に親しまれています。



皇の松伝承地（上道町）

●問い合わせ先

生涯学習課文化体育係

☎47-1093

文化